

令和4年度 京橋朝海幼稚園外部評価報告書

評価委員：徳堂 康彦 副委員長 森田 俊秀 委員
鈴木 康介 委員 田中 悟志 委員

評価時期 令和5年2月

1 重点目標についての評価

- コロナ禍の中、様々な方法を用いながら小学校・幼稚園の各種教育活動や行事を実施できるように努めている先生方の努力に感謝申し上げます。
- 修了式・卒業式におけるマスク着用の報道などの今日的課題も生じる中、今後も様々な方法を駆使しながら柔軟に対応できる幼稚園運営が問われてくるのではないかと。
- コロナ禍による生活3年目となり、今年度修了する幼児は、6月の入園から今日までマスクをすることが生活のスタンダードとなった学年である。必要以上に過去の生活を取り上げてマイナス面として比較するのではなく、現実態を踏まえた生活の在り方を考えていく必要もあるかと思われる。
- 凧揚げやコマ回し、鏡開きなど、幼稚園における日本の伝統文化を大切に各種の教育内容は、今後も充実させてほしい。
- 今後も時代や状況の変化に応じながら教育活動を創意工夫し、子どもたちと直接対峙する経験を大切にしていきたい。

2 今後の改善に向けた意見

- 教員の業務負担は増加する一方と思われる。チームとして業務内容を精選できるよう検討を重ねたり、代行が可能な内容については移譲したりしていきながら、本来取り組むべき職務に専念していただきたい。
- 子どもの躰に対する保護者の関わり方が気になることがある。家庭や幼稚園・小学校だけでなく、地域としても望ましい家庭教育の在り方を考えていきたい。

3 その他の意見

- 核家族化・地域コミュニティの減少などにより、今後ヤングケアラーの問題が大きくなっていくのではないかと。必要に応じ行政のサポートも活用しながら、子どもらしく成長してくれることを望んでいる。